

■ 乗り場行き先階登録システム FLOORNAVI™ のラインアップ拡大

待ち時間、移動時間
大幅短縮

登録された行き先階情報から、高度なアルゴリズム計算で最適な運行スケジュールを算出し、快適な移動を実現。



行き先階登録装置

乗り場行き先階登録システム FLOORNAVI™

Floor selection entry terminals for FLOORNAVI™ elevator destination control system

乗り場行き先階登録システム FLOORNAVI™ は、乗り場に設置される上下ボタンの代わりに行き先階登録装置を設置し、利用者が乗り場で行き先階を登録することで、あらかじめ利用者の人数や行き先階を把握し、効率的なエレベーターの運行管理ができる。

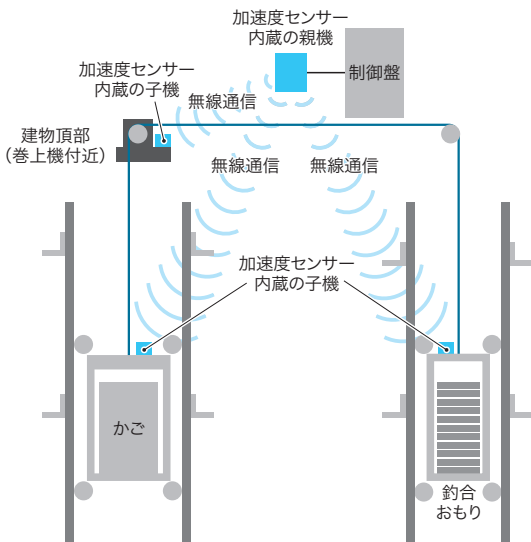
今回、従来の全ての階に行き先階登録装置を設置する FULL-DCS (Destination Control System) 方式に加え、一部の階だけに行き先階登録装置を設置し、ほかの階では上下ボタンを設置する、HYBRID-DCS 方式も適用可能とした。

また、行き先階登録装置のデザインを一新するとともに、登録装置の表示内容やアナウンス機能の向上を目的に、アニメーションによる滑らかな画面表示や、日本語・英語・中国語への対応、階床表示・号機名称の桁数増加などの機能拡大を行った。

これらのラインアップ拡大により、国内・海外でより多くのニーズに応える商品を提供していく。

東芝エレベータ(株)

■ 地震時におけるエレベーター自動復旧運転機能の拡大



エレベーター自動復旧運転拡大機能の概要

Outline of automatic restoration operation expansion function for elevator systems

地震時に、エレベーター機器に損傷のおそれがある強い揺れ(高Gal)を感知しなかった場合、自動診断運転を行って異常がなければフィールドエンジニアの到着を待たずに仮復旧させる、自動復旧運転機能を商品化している。従来は、昇降路や機械室に設置した地震計の計測値からエレベーター機器に加わる揺れを間接的に求め、自動診断運転の可否を判断していた。そのため、例えば、安全に自動診断運転ができるにもかかわらずエレベーターを休止させ、利用再開までに長時間を要する場合があった。

今回、かご・釣合おもり・巻上機の近傍に、加速度センサーを設置し、エレベーター機器に加わる揺れを直接計測して機器そのものの耐震設計強度と比較する方式とした。特に、釣合おもりは加速度センサーへの電線敷設が困難なので、据付時間が短縮でき、かつ既設エレベーターにも適用できる無線通信方式を採用した。これにより、エレベーター機器の耐震設計強度以下の揺れに対して、自動診断運転を行って異常がなければ安全かつ早期にエレベーターを仮復旧させるサービスを提供できる。

東芝エレベータ(株)